

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490800093	
法人名	特定非営利活動法人しらゆり	
事業所名	グループホームしらゆり萩	
所在地	竹田市萩町瓜作4575-1	
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和2年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和2年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた敷地の中で自分の思いを大切に自立した生活が出来るように支援しています。10年になり植えた果実が実るようになり入居者さんを楽しませています。毎年の家族バーベキュー、地域の方を招いての敬老会等で地域に根付いた施設になったと思います。今後も地域に貢献していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・窓の外には久住山や祖母山を臨み、自然豊かな環境である。
- ・毎食施設内で料理されており、地域の方から頂いた野菜などを使い、新鮮で安心・安全な食事となっている。
- ・利用者と職員との関係が良く、毎日が楽しい生活を送れるような支援に取り組んでいる。
- ・人生の最期まで利用者との信頼関係のもと心のかもった関わりがなされている。
- ・利用者の想いを阻害することなく共感できるようなケアに心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を踏まえて自立支援を心掛け実践している、職員のほとんどが地域に住み地域に貢献している。	理念を玄関の見えやすいところに掲示しており、毎月の会議で唱和している。思いやりを日常生活で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	シニアクラブ、敬老会、トマト愛の定期便等で地域の方々との交流の機会がある	隣に公民館があり、行事がある時など地域の方から野菜を頂いたり住民と触れ合っている。ふるさと祭りに利用者連れて行ったり、施設の敬老会に地区の人を招いたりして地域との交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	暮らしのサポートセンターしらみず、キャラバンメイトの活動を通して地域の方のサポートに努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員さんの参加は良好で報告、話し合いは出来ています	民生委員、自治会長、市担当課、地域包括支援センターからの出席があり、行事の報告をしており、出席者から意見を聞いている。推進員と一緒に毎年門松を作っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携は良く出来ています、実地指導も何も無く終わりました。地域包括の職員とも研修を通じ連携があります	市からは毎回推進会議に参加があり、地域包括の職員と共に色々な情報を頂いている。何かあれば電話したり訪問したりして聞いている。日常的に市との連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員の理解があります、会議時に冊子開き共有できるようにしている	新人職員にはマニュアルを渡し、全職員対象に年1回内部研修をしている。日中玄関は施錠せず、出て行こうとする利用者にはそっとついて、庭を散歩する。利用者の行動は抑制せず見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議時に虐待はなかったか振り返りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回研修を行う、義務研修と思って参加してもらってます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、重要事項の説明をしている。又、家族会において料金等の変更があれば説明をし理解していただくようにしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にてケアマネ、担当職員との協議話し合いの場を提供している。地域の方を招待しての敬老会にはご家族も一緒に歓談して頂いています	面会時や年1回の家族会で要望などを聞いている。コーヒーを出して話しやすい雰囲気づくりをしている。これからは家族対応での受診をお願いしているが、話し合いをしている所である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ある会議で提案している	毎月の全体会議で要望等を聞いている。何かあればノートにメモしてもらい、その都度意見を聞いている。シフトについてのクレームはなく希望通りに組んでいる。有給休暇も月1回は必ず取れるように、勤務表の作成に気を付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準、労働時間は希望に添えています が本人の考え次第です		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に4回から5回色々な研修の参加を呼び掛けてはいます、又研修センターでの研修に参加しやすい環境を作っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	たけたん絆に於いてたの職場の方と交流の場を設けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の要望にはケアマネが時間をかけて入所前後ノアセスメントをする際には本人の意向確認し共に安心の関係作りに努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの際に家族の困りごとや要望を十分に聞き安心して頂ける様配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安や困りごとを見極める努力をしている、寄り添っていきたいと思います		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気軽に話の出来る家庭的な雰囲気の中で生活できる。他の入居者との友人関係が出来ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には気楽に来れる環境を作っています、必ずお茶を出しゆっくりとする家族との時間をかける、家族からの世間話も出来る環境があります		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人が訪ねてこられても前項と同じように接し外出も自由にしています	昔懐かしい場所に連れて行ったり、花見やバス旅行をしている。法事や墓参り、お正月などには家族に家に連れて帰ってもらっている。親戚や友人の訪問もあり馴染みが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	デイサービスの方々と一緒に談笑出来るように場を設けて孤立しない様に見守っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設に移られた方、亡くなられたかたの家族とも良好な付き合いが出来ている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との日常の会話から要望をアセスメントし職員間で共に検討している。	利用者は思っていることを口に出して言ってくれるので、入居者会議で本人に要望を聞いている。入居時の基本情報を基に日々変わる本人の思いや家族の気持ちなどをケアマネも同席し聞いており、プランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、家族の聞き取りから本人のニーズの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルから一日の状態を見て支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議でそれぞれの課題についての意見やアイデアをプランに反映しモニタリングを行っている	担当者が付いており、モニタリングをして全体会議で話し合い、プランに反映している。利用者の思いを最大限活かした介護計画になっており、何か変化があればその都度プランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や気づきを元にモニタリングを行いケアプランの見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況を捉え話し合いを行い柔軟な対応に心がけている。レクをしたい方、自室で休みたい方もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	門松有志の方が毎年頑張ってくれてます、暮らしのサポートの応援もしています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは良い関係が築けています、深夜の連絡も取れます	入所する前からのかかりつけ医をそのまま利用することができる。24時間の在宅管理を利用し定期的に往診がある。皮膚科や歯科の訪問診療もある。現在職員が受診に同行しているが、今後は出来るだけ家族に移行するようお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護により入居者の変化に早く気付ける、迅速な対応が出来る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開所から10年、どの病院とも密接な関係が築けている、相談員も施設の状況を理解してくれています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に確認の文章を交わしている、看取りにはその時点で話し合いをします	入居時に、重度化した場合の施設の対応を説明し同意を得ている。状態が変わればその都度同意書を取り直している。看取りについても出来る範囲で行っており、経験を積むたびに職員には心のゆとりができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急救命講習を義務にしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災、災害訓練をして、推進委員さんの協力を頂くようにしています	年2回の消防訓練を行っており、初期消火や避難訓練、夜間想定訓練もある。災害時推進委員にも連絡が行くようになっている。大雨の場合は施設内にとどまる。施設内に備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室入時の声掛けや承諾を頂いている。 権利擁護の研修も受けている	書類は見えない所に保管しており個人情報保護に努めている。本人のやりたい事を損なわないように、又普通の生活ができるように支援している。 権利擁護の研修を受けている。丁寧で親しみのある声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自分の出来ることはしてもらう、家庭的な雰囲気の中自分の気持ちを出して頂くように話しかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応のカリキュラムは作ってます、脳トレ、運動、参加する方しない方がいます、強制しない様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝るときは目まきに替えて頂く、入浴の着替えも出来る方はして頂く様に配慮しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が作ります、そして一緒に食べる、入居者のかたに会うようにメニューを考えています、片付けをしてもらってます	毎食施設内で料理されており、利用者にはお茶碗を拭いてもらったり、みんなで楽しい食事となっている。誕生会やおせち料理、クリスマスや敬老会などの行事には特別な料理が出る。外食に行ったり、庭で食事したり、楽しいひと時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックも出来ています 好き嫌いも最初にはあくしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は入れ歯洗浄等の口腔ケアをしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行くようにしています、リハパン、パットは使用しています、失禁の無いようにトイレに誘導している	利用者は全員リハパンを使用しており、トイレを利用している。排泄パターンを把握して時間を見て声をかけてトイレへ誘導している。夜間は起きてきた利用者をトイレへ誘導している。自立に向けて長く今の状態を維持している様子が伺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に気を付けています、たまに大根デトックスを作ったり、運動にも心がけています毎朝ヨーグルトがおやつです。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回しか入浴は出来ませんが時間をかけて入ってもらいます。時間帯が仕方ないことだと思いますが出来るだけ希望に沿いたいと思います	週2回の入浴である。入浴を拒否する場合は色々声掛けをして入浴する雰囲気を作っている。便失禁のある時はその都度入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は静かに休まれます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護資格のある職員が2名います、職員全員が薬の理解をし、確認しながら投薬します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクをバリエーションをもたせカラオケ、ゲームと様々に対応して笑える様に努力しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春、夏のバス旅行外食、庭での会食等好きな方には草取りもして頂いています。家族の方との外出も自由にして頂いています。	地区のふるさと祭りに出かけている。バス旅行で南阿蘇に出かけたり、久住の花公園、原尻の滝のチューリップなどの見物に行っている。天気の良い日は施設の周りを散歩する。家族と一緒に出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金は本人が持たない様になってますが、面会者に小遣いを渡したい方は家族より預かって管理しています。バス旅行の時は買い物して良いと声掛けしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したりできる方はしています。形態を持って自由にかけられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中々掃除が行き届かなかつたりしますが居心地の良い空間があると思います、10年になり果実が実り皆さんの楽しみになっています	冬は床暖房をしており全館温かく気持ちが良い。窓際には水槽が置かれ癒しの空間となっている。大きな窓からは久住連山や祖母山が望め、落ち着いた雰囲気の中で過ごすことができる。庭にはぶどう棚があり、その下で採れたてのぶどうを食べ大自然を満喫することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後のひと時をデイルームで良く過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を貼ったり、テレビを持ち込まれたり、テーブル、椅子等馴染みの物がおかれている。	これまで使っていた小物や家具、テレビなどを持ち込んでいる。家族の写真を飾ったり、馴染みの本を置いて家にいると思えるような部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂、トイレ居室を分かりやすくしています。		